

令和6年度学校関係者評価委員会報告書

学校関係者評価アンケートの回答形式は、令和4年度からオンラインになった。保護者対象アンケート回収率は以下のように推移した。

令和3年度以前	紙面回答	90%以上
令和4年度	オンライン回答	64.5% (423/655)
令和5年度	オンライン回答	71.4% (468/655) 繰り返しのメール呼びかけを実施した。
令和6年度	オンライン回答	57.4% (383/667)

アンケートの精度を上げるためにも、紙面とオンラインを複合的に取り入れる等、更に協力を求めていきたい。なお、今年度調査実施期間は、11/13～27である。調査期間中、学芸会（11/15、16）を実施した。

昨今の文科省による教員の働き方改革を背景に、都・区の教育委員会の方針にならいながら、学校を変革していくことが急務となっている。また今年度、本校は校長・副校長が新たに着任し、前年度の取組を踏襲しながらも、年度途中に変化した面もある。そのことについて、いかに児童・保護者・地域に学校の考えを発信し、ご理解・ご協力をいただきながら、学校教育活動ができたかもこの調査に反映していることと思われる。

アンケート結果を基にした分析とともに、各学校行事後の記述によるアンケートや実際に感じた児童や学校の様子についても触れたい。なお、文中の「肯定的な評価」は、アンケートの評価「とても思う」「思う」「あまり思わない」「思わない」「わからない」のうち、「とても思う」「思う」を合わせたものの割合を示す。

学校の教育活動についての評価の高かった項目

- ・児童アンケートの評価項目26のうち、肯定的評価が80%を超えたもの—14項目
- ・保護者アンケートの評価項目39のうち、肯定的評価が80%を超えたもの—14項目
- ・地域アンケートの評価項目17のうち、肯定的評価が80%を超えたもの—5項目

特に評価が高かった（肯定的評価）項目は以下のとおりである。

<児童>・授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある。【93.9%】

- ・先生に注意されたことは、理解できる。【92.4%】
- ・先生は、ていねいに指導してくれる。【92.0%】
- ・学校生活は楽しい。【91.7%】
- ・先生は、課題（めあて）について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている。【89.1%】

<保護者>・学校行事は、子どもにとって楽しい。【95.1%】

- ・本校は、避難訓練やセーフティ教室などで、子どもに安全に関する指導をしている。【92.3%】
- ・学校行事は、子どもにとって達成感がある。【92.3%】
- ・本校は、学校公開や保護者会などで、児童の様子が分かる。【89.5%】
- ・私は、学校公開にすんで参加している。【88.7%】

<地域>・学校からのお知らせ（学校だより）などにより、学校の様子が分かる。【94.6%】

- ・学校行事の内容は充実している。【92.7%】
- ・学校の重点目標が明確である。【90.9%】
- ・学校は、安心・安全な学校づくりを進めている。【85.4%】

・事前の準備や当日の案内などで、地域への配慮がある。【83.7%】

昨年度、地域向けアンケートの「あいさつ」に関する項目では、95.4%という数値が出ていた（令和3年度79.5%、令和4年85.4%）が、今年度は、74.5%という数値であった。これは決して低い数値ではなく、本校の児童の挨拶の習慣が肯定的に捉えられていると言える。一方で、挨拶をすることは、声かけが途切れるところ、すぐになくなってしまう習慣とも言える。本校児童の良さである挨拶については、今後も重点目標ではなく、当たり前の習慣化として定着させてほしい。挨拶の意味や大切さを伝え、良き伝統として今後も継続してほしい。

広く本に触れる機会の充実

R5 児童「わたしは、本を読むことが好きである。」 肯定的評価 (R5 58.1%)

R6 児童「私は、本（電子書籍を含む）を月1冊以上読んでいる。 同 (R6 66.4%)

R5 保護者「子どもたちは、読書が好きである。」 肯定的評価 (R5 57.1%)

R6 保護者「子どもたちは、本（電子書籍を含む）を月1冊以上読んでいる。同 (R6 57.1%)

「読書」に関する項目については、昨年度と項目内容を変更した。R5年度より、アンケート項目の「読書」を「物語を読むこと」のみと捉えている児童が多いことも考えられるため、評価委員会では、「読書」を「広く本に触れる機会」と捉えて、「物語を読むこと」はもちろん、「調べる学習で本を使う。」「図鑑で調べる。」といった広い意味で、児童が本に触れる実態を明らかにすることが必要なのではないか、が議論になっている。

児童の実態調査を「本が好き」から「本を読む（事実）」とした。月に1冊以上の読書は、肯定的評価は6割程度に留まった。本を読むことが「好き」な児童が、そのまま「読む（事実）」となったと読み取れる。それでも、学校では、調べる学習に図書を使用したり、毎週の図書の時間が設定されていたりするなど、日常的に読書の機会は確保されている。また、「朝の保護者読み聞かせ」「ことり・たんぽぽの会のお話会」「梅丘図書館による出張おはなし会」など、読み聞かせの機会は多く設定されている。その上、図書委員会を中心とする読書専門の取組は工夫がこらされ、児童が楽しんでいる姿も見られる。授業における調べ学習では、本から一人一台タブレット端末(ipad)の活用に推移し、児童もその手軽さに慣れていますことも考えられる。なおのこと、本を手に取る機会とその良さを味わっていける機会を増やしてほしい。

学び舎の区立中学校の情報提供、交流活動の充実と周知

肯定的評価（3年間の推移）

児童「区立中学校に関する情報が提供されている。」

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
5年生	46.3%	32.4%	36.9%
6年生	68.8%	71.6%	68.1%

保護者「学び舎の区立（幼稚園）中学校についての情報が提供されている。」肯定的評価 44.9% (R5 41.5%)

児童「学び舎の中学校に行ったり、中学生が来たりする機会がある。」

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
5年生	27.5%	28.6%	37.5%
6年生	69.8%	81.8%	68.2%

保護者「本校は、近隣の（幼）・小・中学校で構成する『学び舎』による幼稚園・小学校・中学校の連携や交流活動が行われている。」肯定的評価 61.2% (R5 54.1%)

学び舎に関する項目について、3年間の推移である。両項目とも、5・6年生の数値に差があるのが分かる。6年生では、学び舎の区立中学校についての情報提供や直接的な交流活動が活発に行われるようになったことが要因と考えられる。引き続き、5年生や保護者に対しても、今後行われる交流の計画について伝えたり、あいさつ運動や運動会の運営補助に来る中学生の活動をキャリア教育に価値付けて伝えたりすることで周知を図り、両者の認知度を同様に上げていくことを期待したい。

自己肯定感を育む教育の着実な積み重ねと家庭との連携

児童「わたしにはよいところがあると思う。」肯定的評価

令和4年度	令和5年度	令和6年度
64.8%	74.6%	74.4%

この項目に関しても、3年間の数値を追ってみたところ、着実に数値を伸ばし、定着していることが分かった。なかよし班活動（縦割り班活動）や委員会等で高学年児童が学校のリーダーシップをとる機会や役割が増えた。児童が、その活動の中での成功体験や先生や友達に認められる経験を通して自分のよさを感じる機会があったことも一因として考えられる。しかし、自己肯定感は一朝一夕に上がるものではない。家庭や地域での経験をベースとして、学校等様々な場所での人間関係の中で少しずつ培われて形成されていくものである。引き続き学校と家庭で連携して、児童が安心してありのままの自分を肯定できる環境をつくってほしい。

タブレット型情報端末等 I C T の活用の定着

児童「先生は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている。」肯定的評価 85.3%

保護者「本校は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている。」肯定的評価 67.6%

I C T の活用については、すっかり定着した様子が伺える。学校公開でも、低学年からタブレット型端末を学習に使用する様子が見られた。ただ、児童の評価と保護者の評価との開きはまだある。学校は、引き続き活用の状況を保護者に十分に情報提供していくとともに、学校・家庭での使用に関するルールの徹底に努める必要がある。さらに今年度は、タブレット型端末の活用ルールについても調査をした。

児童「私は、ipad を使うルールを守っている」肯定的評価 82.3%

保護者「子どもたちは、ipad を使うルールを守っている」肯定的評価 55.5%

こちらは、児童と保護者の回答に差が見られた。児童はルールを守っている認識であるが、保護者の方は、児童はルールを守っていないと感じていることが分かった。今後も学校と家庭が連携しながら、学校や家庭でのルールについて、児童と共にルールを共有していくことが必要である。

キャリア・パスポートの活用によるキャリア教育の充実

児童「自分の生き方や将来のことについて、考える授業がある。」肯定的評価 58.5% (R5 81.4%)

保護者「本校は、子どもの生き方や将来のことについて考える授業をしている。」肯定的評価 44.2% (R5 49.3%)

児童の肯定的評価が著しく下がった。この授業が自分の将来につながっていることを確認しながら進めてほしい。保護者への周知では課題が残るが、キャリア・パスポートの活用がさらに充実することで、児童にとって学校の教育活動におけるキャリア教育が当たり前のものになっていくのではないだろうか。内容の改善を含めて、更に充実を図ってほしい。

相談について

児童「先生たちに相談できる。」肯定的評価 74.5% (R5 86.0%) (R4 79.0%)

否定的評価 20.8% (R5 10.9%) (R4 14.2%)

数値的には約 10 %の差であるが、前年度よりも低くなっている。児童が、「先生=担任」に限定して回答しているか、児童が相談したくても相談する時間がないのか、児童は、先生の多忙を目の当たりにして相談することを控えてしまうのか、発達年齢的に大人に相談しなくなってくるかもしれない等、様々な事情が考えられる。しかし、相談できる大人（先生）が近くに多くいれば、児童はさらに安心して学校生活を送ることができるのでないか。児童が相談できる環境を整えてほしい。

生活指導（交通ルール・あいさつ）について

① 地域「通学している子どもたちは、交通ルールなどを守っている。」

肯定的評価 74.6% (R5 93.0%) (R4 89.1%)

交通ルールについては、昨年度と比べ約 18.4% の差となっている。前年度よりも低くなっている。今年度も 70% 以上が肯定的評価をあげているが、昨年度、一昨年度と比較すると、数値は下がっている。交通ルールについて、学校でも指導する機会をより一層設けるなど、また家庭でも交通ルールについて話すなど、児童の意識を高める必要がある。

② 地域「本校の子どもたちは、あいさつをしている。」**肯定的評価 74.5% (R5 95.4%) (R4 85.4%)**

あいさつについては、昨年度と比べ約 20.9% の差となっている。前年度よりも低くなっている。学び舎でのあいさつ運動を行っているが、地域から見ると挨拶をしている児童が減ってきてている認識と言える。

評価委員の中では、児童は交通ルールを守り、あいさつをすることもともに実践できている認識である。ただ、特に下校中については、広がって歩かない等、地域から学校への要望はあった。交通ルールを守ること、またあいさつがあふれる学校となることをめざしてもらいたい。